



DA 1751

# 2017年度 ロジスティクス大賞

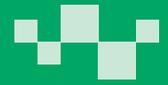
## 応募のご案内

応募受付締切日

2017年

4月14日(金)

# ロジスティクス大賞の概要



## ロジスティクス大賞とは

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、ロジスティクス推進に向けて、顕著な努力と優れた実績をあげたと認められる企業、機関、団体を表彰する「ロジスティクス大賞」を設けております。

また、優れた実績、成果を顕彰し、ロジスティクスの社会的浸透と、ロジスティクス部門および関係者の意識高揚を図ることを目的としております。

## 応募のすすめ

企業活動におけるロジスティクスは、調達、生産、販売、輸配送、回収、再生にいたる過程を、部門や個別企業における部分最適を超えて企業間連携による全体最適を追求し、経営戦略的な視野に立った総合的なシステムの構築が不可欠になります。

各企業においては、ロジスティクスの高度化のために、ICTを活用した可視化によるサプライチェーンマネジメントの構築、企業活動のグローバル展開に伴うネットワークの整備、環境調和型ロジスティクスの構築と普及による循環型社会の実現など、様々な取り組みがなされております。

このようなロジスティクスの高度化への取り組みと、その優れた実績を広く社会に公表することは、新たな挑戦目標を生み出す刺激となり、当該企業のみならず、広く産業界の関係者にとって極めて有意義なことであります。

本年度で第34回を迎える「ロジスティクス大賞」へのご応募をお待ちしております。

## 応募要領

### 募集対象

日本国内に事業所を有する企業・機関・団体。

### ①応募 お申込み 締切日:4月14日(金)

- ・自薦、他薦は問いません。
- ・別紙申込書にご記入のうえ、4月14日(金)までに「会社案内」もしくは「事業案内」とともに事務局宛にご郵送ください。折り返し、「論文作成要領」をお送りいたします。
- ・他薦の場合は、当協会ホームページ (<http://www.logistics.or.jp/propulsion/list/prize.html>) より推薦書をダウンロードしてください。

※論文作成要領はホームページからもダウンロードできます。

※応募資料は返却いたしません。また、外部には一切公開いたしません。

当協会では、個人情報の保護に努めております。

詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。

## スケジュール

～4/14

### ①応募 お申込み

申込書と会社案内をお送りいただきます。

～5/12

### ②論文の提出

論文執筆要領に従い、論文のご執筆・ご提出をいただきます。

6月  
下旬

### ③ノミネート委員会の開催

必要に応じ、委員会の場にお越しいただき、ヒアリングを実施いたします。

7月  
下旬

### ④選考委員会の開催

ロジスティクス大賞および特別賞が決定されます。

8月  
下旬

### ⑤受賞企業の発表

審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。

10月

### ⑥ロジスティクス全国大会2017にて表彰式・受賞記念講演

受賞企業にはロジスティクス全国大会にてご講演をお願いいたします。

## ②論文の提出 締切日:5月12日(金)

下記の要領にて、5月12日(金)までにアブストラクトと論文を事務局宛にご郵送ください。

### 1. アブストラクト

以下の項目につき、A4サイズ1枚程度に簡潔に記載してください。

- 取り組みを行うに至った背景と目的
- 取り組みの概要
- 取り組みによる成果

### 2. 論文

論文構成として、以下の内容を記載してください。

#### (1)目標設定と条件

取り組む前提状況(着眼点)および総合目標の設定。

#### (2)活動の展開・対策および組織体制

対策内容とそれに伴う活動及び組織体制の整備、革新的技術の応用度。

#### (3)実績(成果)と経営革新度

実績(定量的な成果)と経営革新への貢献度。

#### (4)社会的影響と貢献

他企業・事業所などへの応用、社会システムとしての汎用性。

※詳細は事務局よりお送りする「論文作成要領」をご確認ください。

## ③ノミネート委員会の開催

## ④選考委員会の開催

### 審査の方法

以下の評価基準に従って、ロジスティクス大賞ノミネート委員会ならびにロジスティクス大賞選考委員会にて論文審査が行われます。

※ノミネート委員会では、必要に応じ、委員会の場にお越しいただきヒアリングを実施いたします。

<b>創造性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・着眼点の新しさ</li><li>・目標の革新性</li><li>・オリジナリティ(または独創性)</li></ul>	<b>技術革新度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・マテハン技術</li><li>・情報技術等の革新的技術の応用度</li></ul>
<b>成果度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・顧客満足度向上</li><li>・生産性向上</li><li>・差別化の実現等の定量的な成果度</li></ul>	<b>社会性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・他企業や事業所などへの適用可能性(または応用可能性)</li><li>・社会システムとしての汎用性</li></ul>
<b>経営革新度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・経営革新への貢献度</li></ul>	<b>努力度</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・持続的な注力度、努力度(内外の関係組織との間の調整等を含む)</li><li>・人材の能力向上度</li></ul>

## ⑤受賞企業の発表

審査結果は8月下旬までに応募企業へ通知いたします。

※受賞されなかった企業につきましては、選考委員からのコメントが送付されます。

## ⑥ロジスティクス全国大会2017にて表彰式・受賞記念講演

### 表彰

ロジスティクス大賞受賞企業には、賞楯と副賞として賞金を授与いたします。

※受賞企業は、当協会機関誌「ロジスティクスシステム」やホームページの他、専門雑誌および業界紙等で発表いたします。

※受賞企業には、ご講演、見学の受入れをお願いいたします。

### 表彰式

表彰式は10月に開催される「ロジスティクス全国大会2017」の席上にて執り行われます。

※受賞企業には、「ロジスティクス全国大会2017」にて、「受賞記念講演」として、取組みをご発表いただきます。

# 過去の受賞企業

※企業名は受賞当時



ロジスティクス大賞楯

## 2016年度

### ■ 2016年度ロジスティクス大賞

受賞企業：大塚倉庫株式会社

受賞テーマ：物流のあたりまえを壊す「e-伝票」の仕組み～写真とネット予約で労働時間を変える～

受賞事由：近年、トラックドライバー不足が深刻化している。直近の2年間で4万人も減少し、平成27年度は80万人となっている。この労働力不足の原因の一つにトラックドライバーの長時間労働があるとされており、本取組はこの長時間労働の要因である納品時の滞留時間の短縮を目指した取組である。ムダな荷役待ちの削減のためにWeb予約を取り入れた改善のほか、納品伝票と受領印を電子化し、さらに数量の過不足と商品破損が確認できる写真を付与することで、入庫時の検品を廃止する仕組みを構築した。これにより、滞留時間を大幅に削減し、ドライバーの拘束時間を削減したほか、車両回転数の向上による協力運送事業者の収益改善、さらには電子化によって事務管理費用の削減にも貢献した取組が高く評価された。

### ■ 2016年度ロジスティクス大賞 協働努力賞

受賞企業：リコーロジスティクス株式会社/三愛ロジスティクス株式会社

受賞テーマ：複数荷主の物流を一元化「共同物流センターの構築」

受賞事由：カメラ用品を取り扱う荷主3社からさらなる物流コストの削減を求められている中、物流センターでは人が集まりにくい状況となりつつあり、人件費の高騰が経営課題となっていた。この課題に対して1社単独での改善には限界があることから、複数の荷主を対象に物流センターの資源である①人材、②スペース、③情報システム、④マテハン設備、⑤車両を共有化し、24時間体制で運営できる共同物流センターを構築した取組である。複数荷主の物流を一元化することにより、保管効率の向上を図るとともに、オリコン用自動倉庫やベルトコンベアなどのマテハン設備を導入することにより、人を歩かせずに、必要な商品が手元に搬送されてくる仕組みを構築した。これにより、人に優しい作業環境を実現しており、生産性を31%も改善するなど大きな成果をもたらしたことが評価された。

### ■ 2016年度ロジスティクス大賞 技術活用賞

受賞企業：富士物流株式会社

受賞テーマ：RFID技術の利用による庫内作業時間低減の実現～無人棚卸ロボットの開発、現場導入とその効果～

受賞事由：SuicaやPASMOとして普段の生活で活用されるようになってきているRFID技術は、物流分野では費用対効果が十分に得られないとしてその適用拡大が進んでいない。しかし、近年ではICタグの値段が安価になってきたことから、実用化が可能となってきた。本取組はRFID技術を用いた棚卸ロボットにより、煩雑な棚卸業務を無人化した取組である。2008年に「実験機」となる棚卸ロボット1号機を開発した後、2010年に「実用機」として2号機を開発し、そして、2016年に中・軽量棚での物品の棚卸など、活用可能範囲を拡大できるように改良した3号機「愛称：ロジらぶ」の運用を開始した。約1万点を対象とした運用では、棚卸に係る作業時間を約1/4に削減する効果を得ている。ロボットの走行制御にQRコードラベルを用いるなど、既存技術をうまく活用した取組であることが評価された。

### ■ 2016年度ロジスティクス大賞 業務革新賞

受賞企業：花王株式会社

受賞テーマ：予測技術を活用したSCM全体最適の実現

受賞事由：小売店からの全ての注文データをグループ内で保有している強みを活かし、調達から販売に至るあらゆる計画に需要予測を用いた業務改善を実施している。2週間先の需要予測から出荷量の曜日波動やキャンペーンによる波動を予測し、商品の前送りを行うことで輸送用のトラック台数の平準化や荷姿のバレット化などを行っている。これにより、安定したトラック車両の確保と荷役作業の効率化、積載率の向上を実現している。また、庫内のピッキング作業にも需要予測を用いており、近年増加しているピース出荷に対して、当日出荷分のみを事前補充する仕組みを構築し、ピッキング作業の生産性を向上させている。以上のように需要予測を用いて全ての業務が連動した業務改善を実現している点が、優れた取組として評価された。

### ■ 2016年度ロジスティクス大賞 選考委員会 特別賞

受賞企業：認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋/特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会  
/認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

受賞テーマ：環境・福祉・災害救援3NPOの物流センターの共同利用と、すべての物を生かす連携事業の試み～平時と有事を繋ぐ～

受賞事由：本取組は、物流現場で用いられているT11型のレンタルパレットやWMSをNPO法人の業務の中にも活用することにより、「物流」を中心とした事業の連携を図り、見事にそれぞれの事業の拡大を実現した取組である。例えば、被災地支援を目的とするNPO法人にとって、支援終了後に在庫として残った食品の廃棄が問題となっていた。これを生活困窮者への食糧配布を目的とするNPO法人に引き継ぐことで、被災地支援時に従来断っていたパレットによる救援物資の大口入庫を可能とするとともに、支援終了後の廃棄の実現している。この「物流」を中心とした事業の連携は、現在、国内にある50,965（平成28年5月31日現在）のNPO法人にとっても非常に参考となる取組といえ、社会全体の利益に資する取組として高く評価された。また、この取組は物流企業とNPO法人との連携の可能性について示唆を与えるものといえる。

## 2015年度

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞

受賞企業：大塚倉庫株式会社

受賞テーマ：共通プラットフォームの進化～2回転配送を実現してトラック不足を解消する仕組み～

受賞事由：夏型商品と冬型商品、重量品と軽量品を組み合わせる共通プラットフォーム戦略は、配送パートナー会社のトラックの積載率を高める仕組みであり、WIN-WINの関係強化する仕組みと信じていた。しかし、物量の増加に伴って午前と午後の納品量のアンバランスを増長し、トラックの回転率を著しく低下させる要因となった。この問題に対し、翌日の午前納品だった物量の一部を、当日の午後納品に変更する改善を行った。これにより、配送パートナー会社の収益改善に貢献するとともに、リードタイムの短縮による納品先の在庫削減、さらには入荷作業の分散化による人員の適正化も実現した。関係者全員にとってメリットのある取組みであり、トラック不足を解消する仕組みとして高く評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 業務改革賞

受賞企業：株式会社デンソー/株式会社デンソーロジテム/株式会社デンソーITソリューションズ

受賞テーマ：「輸送ネットワークの最適化」と「コンプライアンスを遵守した乗務員に優しい輸送」を両立させた次世代輸送マネジメントシステムの構築  
受賞事由：2008年のリーマンショックによる需要の大変動は、グループの物流ネットワーク機能を麻痺させ、モノが物流倉庫に溢れかえった。この時の教訓とトラック乗務員不足の深刻化に対応すべく、IT技術を活用した輸送ネットワークの最適化とコンプライアンスを遵守した乗務員にやさしい輸送を実現する「持続可能な輸送マネジメントシステム」を確立した。運行ダイヤのコスト最小化と乗務員の働きやすさとの両立を図るべく、働きやすさを数値化し最適化を行う運行ダイヤ作成システムを開発、作成工数を9割削減、トラック積載率を7.7%も向上させた。そして、この計画に基づく運行のモニタリング、積載率向上委員会等による改善の実施といったPDCAサイクルをまわすマネジメントシステムが評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 奨励賞

受賞企業：リコーロジスティクス株式会社

受賞テーマ：通販物流センター再構築による、物流センターオペレーションの技術革新と、物流ネットワーク全体最適化の実現

受賞事由：受託した通販物流の拡大に伴って、物量及び取扱商品が増大し、当初稼働していた物流センターでは対応できずに、外部倉庫を含め8箇所の拠点での業務を余儀なくされていた。本取り組みでは、この問題に対して抜本的解決を図るために、「止めない物流」をコンセプトに大型物流センターを新設し、東日本大震災時にも1日も止めることなく業務を継続した。また、出荷の引き当てからピッキング作業指示を自動化、オリコンの自動組立や荷札の自動貼付等を行うマテハン設備を導入し、無人化を実現した。さらに、販売予測を活用した商品のロケーション設定や入庫から配送までの全工程をモニタリングし効率化を図るなど、受注から出荷まで最短15分で出荷できる物流センターを稼働させた点が評価された。

### ■ 2015年度ロジスティクス大賞 環境賞

受賞企業：ユニリーバ・ジャパン・サービス株式会社

受賞テーマ：環境負荷を低減する包括的ロジスティクスシステムの構築

受賞事由：2020年までに「環境負荷を減らし、社会に貢献しながら、ビジネスを2倍にする」という企業ビジョンを達成するために、「ユニリーバ・サステナブル・リビング・プラン」を掲げ、生産、保管、加工、輸配送における活動において生み出される廃棄物についての埋め立てをゼロにする「ゼロ・ランドフィル」を推進している。このため経営陣から現場まで、全社のあらゆる場面での判断要素に積極的に「ゼロ・ランドフィル」を取り込むとともに、地域のボランティア活動や全社集会以での活動報告を通じて継続的に意識を高めている。そして、契約する廃棄業者や委託する3PL事業所において環境負荷低減に向けた取組を推進するために、アイデアを出し合い、検討を重ねる場を設けてきた点が評価された。